

引用する・参考文献リストを作る

集めた情報を取捨選択し、自分の論文の中で論拠などに活用する際は、他の研究成果を剽窃したことになるように、自分の文章と明確に区別して引用し、出典を明示しなければなりません。

引用の書き方

論文の中で引用箇所を示すには、以下のような方法があります。

■ 「 」で括って引用する

この点に関する問題として、「……」⁽¹⁾と述べている。

■ 前後に1行空け、段落を下げて引用する

この点に関する問題として、次のように述べている。

……
……
……⁽¹⁾

■ ポイントを要約して引用する

この点について……という問題提起がある⁽¹⁾。

いずれの場合も、引用箇所のすぐ後に、⁽¹⁾、⁽²⁾のような一連番号を付け、論文末尾の参考文献リストの番号と対応させます。

あるいは、一連番号ではなく、(山田, 2005)のように、著者名と出版年を()で括って示し、参考文献リストは著者名順に並べる方法もあります。

引用するときの注意点

引用を明示する目的は、参考にした他の研究のオリジナリティを尊重することと、論文の読者に自分の主張を良く理解してもらうことにあります。

この点に留意すると、以下のことに注意が必要であることがわかります。

■ 引用は正確に書く

引用する際は、原文に書いてあるとおりに正確に書きます。著者の意図を読み違えないように、原文の文脈から趣旨を正確に読み取ることも必要です。

他人が引用している文章を原文にあらずに引用すること(いわゆる「孫引き」)は、正確性の観点からも避けるべき行為です。

■ 出典の情報は正確に記述する

参考文献リストに挙げた情報(著者名、誌名、巻・号・ページなど)が間違っていると、それを頼りに文献を探そうとする読者に、大変迷惑がかかります。論文自体の信頼性も損なわれますので注意してください。

■ 第三者が参照できる情報を挙げる

論文の読者のことを考えれば、第三者が参照可能で、できるかぎり入手しやすい情報を参考文献として挙げる配慮も求められます。

参考文献リストの書き方

引用箇所での出典の示し方や、参考文献リストの記述方法は、指定された書式に従う必要があります。

分野によって標準的となっている書式もありますが、完全な統一基準が存在する訳ではありません。

右のページに、一例として、科学技術情報流通技術基準からの抜粋を挙げました。この基準はインターネット上で見ることができます。

雑誌に投稿する場合は、それぞれの雑誌に投稿規定があり、その中で書式が指定されていますので、それに従ってください。

参考文献リストの書き方の一例

科学技術情報流通技術基準 (SIST : Standards for Information of Science and Technology)
・ 参考文献の書き方 (SIST 02) (http://sist-jst.jp/handbook/sist02_2007/main.htm)

■ 雑誌の 1 記事

著者名. 論文名. 誌名. 出版年, 巻数, 号数, はじめのページおわりのページ, ISSN. (言語の表示), (媒体表示), 入手先, (入手日付).

例 (a) 花岡 昌. 戦略的アウトソーシングにともなうシステム監査のあり方について. システム監査. 1996, vol. 9, no. 2, p. 2-10.

(b) 花岡 昌. 戦略的アウトソーシングにともなう… . システム監査. 1996, 9(2), p. 2-10.

■ 図書 1 冊を参照する場合

著者名. 書名. 版表示, 出版地, 出版者, 出版年, 総ページ数, (シリーズ名, シリーズ番号), ISBN. (言語の表示), (媒体表示), 入手先, (入手日付).

例 井手文雄. 界面制御と複合材料の設計. 東京, シグマ出版, 1995, 250p., ISBN 4-915666-27-1.

■ 図書の 1 章又は一部を参照する場合

著者名. “章の見出し”. 書名. 編者名. 版表示, 出版地, 出版者, 出版年, はじめのページおわりのページ, (シリーズ名, シリーズ番号), ISBN. (言語の表示), (媒体表示), 入手先, (入手日付).

例 井手文雄. “3 界面制御の技術”. 界面制御と複合材料の設計. 東京, シグマ出版, 1995, p. 12-43, ISBN 4-915666-27-1.

■ 電子雑誌の 1 論文

著者名. 論文名. 誌名. 出版年, 巻数, 号数, はじめのページおわりのページ, ISSN. (言語の表示), (媒体表示), 入手先, (入手日付).

例 荒川正幹ほか. Hopfield Neural Network を用いた新しい分子重ね合わせ手法の 3D-QSAR への応用. Journal of Computer Aided Chemistry. 2002, vol. 3, p. 63-72. <http://joi.jlc.jst.go.jp/JST.JSTAGE/jcac/3.63>, (参照 2002-12-03).

■ Web サイト、Web ページ

著者名. “Web ページの題名”. Web サイトの名称. 更新日付. (言語の表示), (媒体表示), 入手先, (入手日付).

例 斎藤 彬夫. “DME (ジメチルエーテル) 燃料普及のための提言”. 日本機械学会. 2003-1-11. <http://www.jsme.or.jp/teigb01.htm>, (参照 2003-02-24).

文献管理ツール

参考文献リストの作成・管理にかかる労力を軽減するためには、文献管理ツールを活用するのも 1 つの方法です。文献管理ツールには、パソコンにインストールして使用するソフトと Web 版の 2 種類があります。現在、東京大学では、RefWorks、EndNote Web の 2 種類の Web 版を無料で利用することができます (ユーザ登録が必要です)。

ツールによって使える機能は異なりますが、一般的に、文献管理ツールを使うと、次のようなことができます。

■ 文献データベースの作成

各種の文献データベースを検索して、得られた情報 (著者名、論文名、誌名など) を、文献管理ツールに取り込み、いわば自分にとって必要な文献だけのデータベースとして保存・管理しておくことができます。

■ 参考文献リスト作成の自動化

文献管理ツールに保存しておいたデータは、論文の原稿を書いているときに検索して呼び出し、文中の引用箇所につける番号と論文末尾の参考文献リストを、自動作成することができます。投稿する雑誌の投稿規定に対応した書式での自動作成も可能です。